

第1回 コスト削減のポイント

コスト削減によって利益体質への改善・強化とあわせ経費の重点配分による持続的な競争力強化へと結びつけることが重要です。

短期的なコスト削減にのみ目を奪われ、結果的に企業そのものの体質を弱体化させジリ貧状態に陥った企業が少なくないことを肝に銘じておきましょう。

コスト削減にあたっての12の着眼点

1. **コスト構造は事業構造の反映であること。**従ってコスト削減を進めるにあたっては、今現在の事業の組立てを前提として考えるのか事業構造そのものの見直しまで踏み込むかでその対応は大きく異なります。
—今や企業存続をかけて事業構造そのものの変革まで求められているといえます。
2. コスト削減にあたって**トップは経営に対する全体感をもつこと。**
3. **コスト削減はP/L上の経費削減とB/S上の経費削減との双方にまたがるもの**であり経費、資産の有効活用を全費目、全資産にわたって検討すべきこと。
4. **コスト削減の具体的数値目標を明確にすること。**その際コスト競争力において他に勝るレベルでなければ今後生き残れないと肝に銘ずること。
5. **経営トップから末端従業員にいたるまでコスト削減の目的と目標達成に向けての意識の共有がされること。**特にトップの率先垂範と現場における意識づけは不可欠、ただ命令するだけで出来るものではない。仕掛けと工夫が必要。
6. **コスト削減の結果、会社がどう変わるのか将来のビジョンをトップは見せ、その努力に対し参加者全員に夢と希望を与えること。**
7. いたずらに削減するだけでなく、より多くの付加価値、利益貢献、成長性が期待されるなら、**削減した経費の一部を重点配分し体質強化に、活力アップに向けて活用すること。**
8. **経費について内部経費、外部経費に分け企業内の問題のみとせず、外部調達先、**

外部委託先を含めて削減に取り組むこと。

9. 損益分岐点の引き下げ、経営の柔軟性の確保からいっても経費の固定費化はさけ変動費化を進めること。人件費を始めとして検討すべき費用は多い。
10. 努力成果に対し報償等の社員への還元策も織り込むこと。
11. 現場はコスト削減のヒント、知恵の宝庫であることを忘れてはいけない。そのためにも現場感覚を大事にし、経営トップは現場に出かける努力が不可欠。
12. 持続的な経費削減はトップの飽くなきリーダーシップと全員参加による組織的な取り組みが不可欠。現場が一丸となって取り組んだときの成果は測り知れない。

以上の諸点からまずもう一度現状の経営を見直し、今後の改善を進める上での参考になればと思います。少なくとも20%以上のコスト削減を前提に総合的・抜本的に見直しをしたいものです。

また、もしお問い合わせ等があれば遠慮なくご連絡ください(相談無料)。